

12
月



美園小だより

令和6年11月29日
さいたま市立美園小学校
第171号 児童数 1063名
Tel 048(812)6611
Fax 048(878)6660

To put yourself in someone's shoes

誰かの靴を履いてみる

校長 河野 秀樹



この「おたがいさま」の絵は、各教室に掲示してあります。「自分自身のよさだけでなく、相手のよさも認めることができる。相手の立場に立って考え、困ったときには助け合う」そのような美園小の子どもたちの豊かな心である「おたがいさま」の気持ちをイメージしたものです。

先日、6年生の日光修学旅行の引率をしました。昨年も訪れましたが、今年は戦場ヶ原や東照宮で多くの外国人を見かけ、その数に驚きました。すれ違うときにどこから来たのか聞いて

みると、スペインやドイツ、ルーマニアなど様々でした。感心したことは、子どもたちが外国の人たちと明るくあいさつを交わし交流していたことです。このように誰とでもコミュニケーションがとれるのは、6年間積み重ねてきたGS（グローバル・スタディーは、さいたま市独自の英語カリキュラム）の成果であると思いました。

私は、今から25年ほど前にロンドン日本人学校で3年間勤務しました。着任して間もなく、2歳だった娘は、日本の幼稚園にあたるナーサリーに通いました。そこは教会の中であり、先生一人に対して子どもは6人までと決まっていたので、最高でも18人しか入れません。とてもアットホームな感じでしたが、日本人は娘だけ。赴任前は白人の国というイメージでしたが、イギリス人のほかにはイラクやスペイン、ロシア、マレーシア、インドなど国際色豊かで、「コスモポリタンとはこういうことなんだなあ」と思いました。そのような環境の中で友達とかかわりあう娘の姿に、微笑ましさとかくましさを感じました。現在、その娘は国際貢献に関わる仕事に就き、様々な人種の友達が世界中にいます。

私たちの周りには、外国人に限らず自分とは異なる多様な人たちがいます。その中で、どのように自分自身や相手のことを考え、自己表現をしていけばよいのでしょうか。ブレイディみかこ氏の著書の中で、中学生の息子さんは「世界中で起きているいろんな混乱を僕らが乗り越えていくには、自分とは違う立場の人々や、自分と違う意見を持つ人々の気持ちを想像してみるのが大事なんだって。つまり、他人の靴を履いてみる。これからは『エンパシーの時代』って先生がホワイトボードにでっかく書いた」と、ブレイディさんに授業の様子を語っています。エンパシーについて「自分と違う理念や信念を持つ人や、別にかわいそうとは思えない立場の人々が何を考えているのだろうと想像する力のこと」と、ブレイディさんは述べています。

今月は本校の人権月間です。学校では、これまでの「人権の花運動」や「講演会」に加え、「人権標語の掲示」や「赤い羽根募金」などを行います。人権の問題には「子ども」「高齢者」「障害」「外国人」「感染症」「インターネット上」など様々な課題がありますが、御家庭でも身近な出来事やニュースなどから、話題にしてみたらいかがでしょうか。

参考図書「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」 ブレイディみかこ 新潮社